

第1章 県民の幸福度の現状 ～属性別にみた姿～

分析の考え方

第1回みえ県民意識調査の問1では、日ごろ感じている幸福度について、内閣府の国民生活選好度調査の質問に準じ、10点満点で質問し、5,710人の方からいただいた回答を集計しました。

その結果、県全体の平均値は6.56点となり、また、女性の平均値が男性の平均値より高いことや、年代別では30歳代が最も平均値が高いことなど、県民の皆さんの幸福度に関するさまざまなデータが得られました。

これらのデータは、県民の皆さんの幸福度の現状を知る貴重な手がかりであり、どういった県民の皆さんがより幸福度が高いのか、何が幸福度に影響を与えているのかといったことを、できるだけ明らかにしていきます。

(分析の進め方)

第1章では、この調査で質問した7つの属性(性、年代、職業、結婚、世帯構成、世帯収入、地域)を2つ以上組み合わせることにより、幸福度の平均値を細分化し、どのカテゴリーが幸福度が高いのか、或いは低いのかなど、特徴や傾向を抽出しました。

また、幸福度に影響を与えるものは何なのかを探るため、幸福度について特徴の見られたカテゴリーについて、問3(日ごろの暮らしの実感)の12項目とクロス集計を行い、日ごろの暮らしの実感の状況を把握しました。

(参考)

ここでは、幸福度の平均値の差や日ごろの暮らしの実感の回答割合の差について、それらの差には統計的に有意性があるかどうかについて検証を行い、基本的には、統計的に有意性のある差を特徴や傾向等としてまとめています。

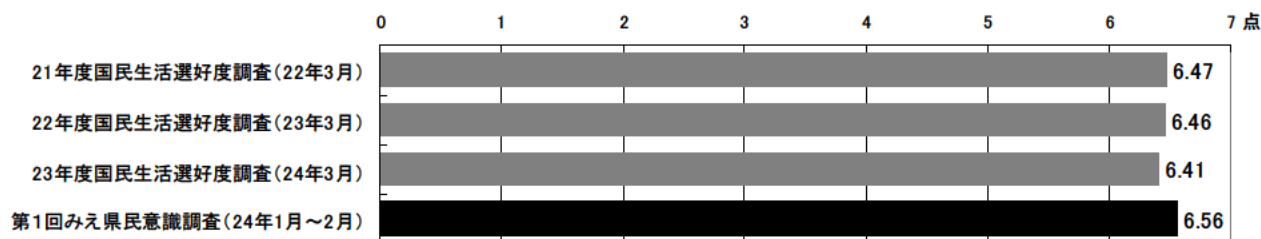
調査票は資料編1～7頁に掲載

統計的な手法の詳細については資料編8頁に掲載

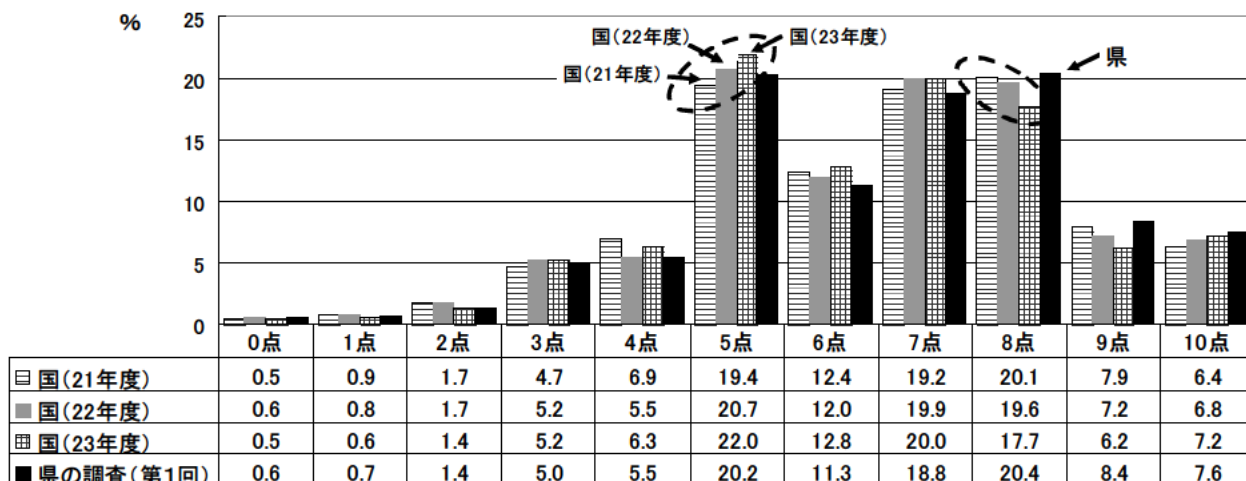
II 分析結果

1 県の調査と内閣府の国民生活選好度調査（平成21年度から23年度）との比較

図表①：県の調査と内閣府の国民生活選好度調査における幸福度の平均値の比較



図表②：県の調査と内閣府の国民生活選好度調査における幸福度の点数の分布



図表③：第1回みえ県民意識調査と平成23年度国民生活選好度調査における調査方法の違い

	第1回みえ県民意識調査	平成23年度国民生活選好度調査
調査時期	平成24年1月～2月	平成24年3月
標本数	県内居住の男女 10,000人	全国に居住する男女 4,000人
有効回答数(率)	5,710 (57.1%)	2,802 (70.1%)
調査対象	20歳以上	15歳から80歳
実施方法	郵送法	調査員による個別訪問留置法

【要点】

内閣府の国民生活選好度調査における幸福度の平均値は低下しています。

みえ県民意識調査と国民生活選好度調査では調査方法が同一ではないことから、単純な比較は出来ませんが、県民全体の幸福度は国民全体の幸福度よりも高くなっています。

また、幸福度の点数の分布をみると、国、県の調査いずれも、5点と8点の割合が高いM字の曲線を描いていますが、国の調査では5点の割合が増加し、最も高くなっているのに対し、県の調査では8点の割合が最も高くなっています。

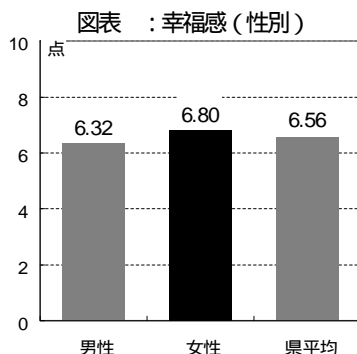
2 一属性のクロス分析

県民の幸福度の特徴や傾向を把握するスタートとして、みえ県民意識調査で質問した7つの属性(性別、年代、職業、結婚、世帯構成、世帯収入、地域)によるクロス分析(細分化)を行いました。

(1) 性別

性別の幸福度を見たところ、女性の方が男性より高くなっています。

詳細な情報は資料編12頁に掲載

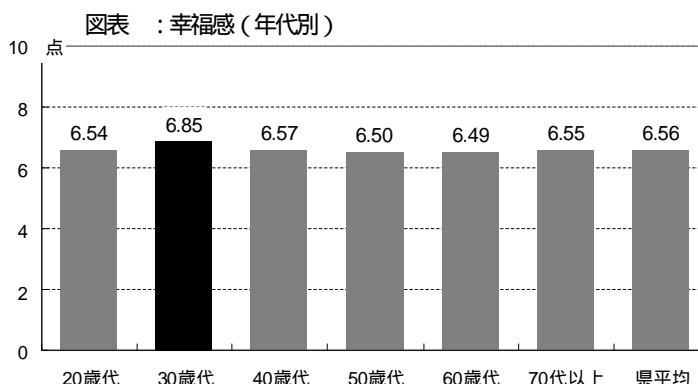


(2) 年代別

年代別の幸福度を見たところ、30歳代が県平均より高くなっています。

30歳代以外の年代と県平均との間に、統計的に有意な差は見られません。

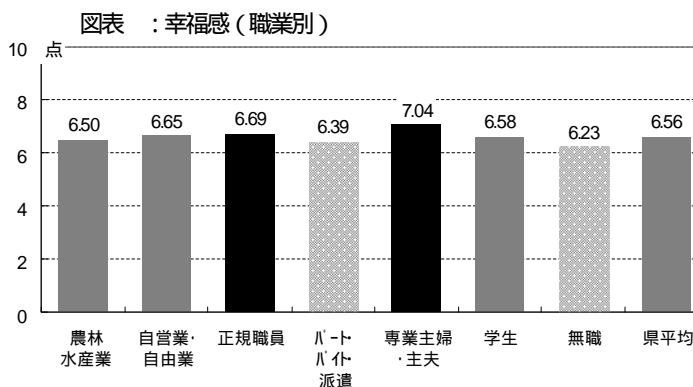
詳細な情報は資料編13～15頁に掲載



(3) 職業別

職業別の幸福度を見たところ、県平均より、正規職員と専業主婦・主夫が高く、パート・バイト・派遣と無職が低くなっています。

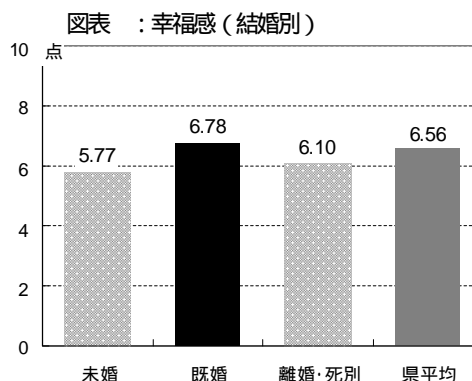
詳細な情報は資料編16～18頁に掲載



(4) 結婚別

結婚別の幸福度を見たところ、既婚が最も高く、次いで離婚・死別、未婚の順となっています。

詳細な情報は資料編19～20頁に掲載

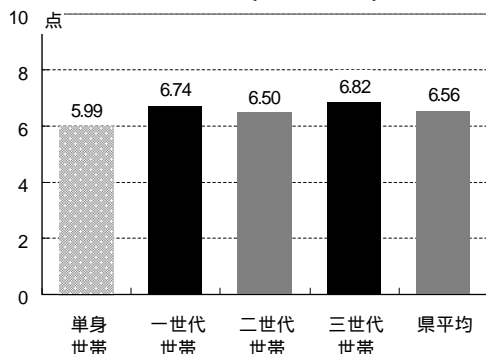


(5) 世帯構成別

世帯構成別の幸福度を見たところ、県平均より、単身世帯が低く、一世代世帯と三世代世帯が高くなっています。

詳細な情報は資料編21～22頁に掲載

図表：幸福度（世帯構成別）



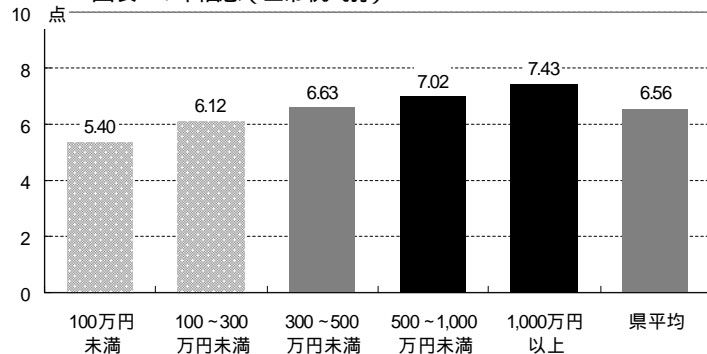
(6) 世帯収入別

世帯収入別の幸福度を見たところ、県平均より、300万円未満の層が低く、500万円以上の層が高くなっています。

300～500万円未満の層が県平均とほぼ同じ水準にあります。

詳細な情報は資料編23～25頁に掲載

図表：幸福度（世帯収入別）



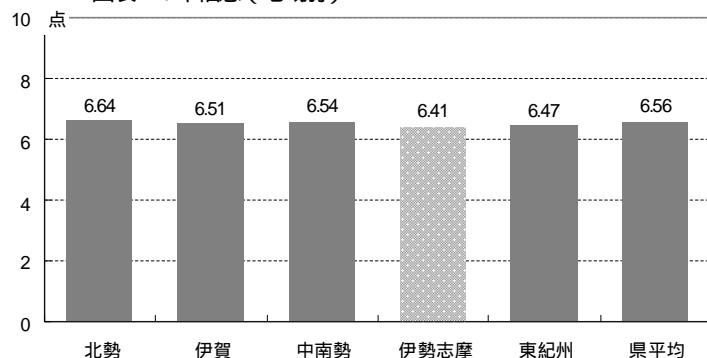
(7) 地域別

地域別の幸福度を見たところ、他の属性と比べ、差は小さくなっています。

その中で、伊勢志摩地域は県平均より低くなっていますが、それ以外の地域と県平均との間に、統計的に有意な差は見られません。

詳細な情報は資料編26～27頁に掲載

図表：幸福度（地域別）



(参考) 4 - 5頁における

- 黒色：幸福度の平均値が県平均より高く、かつ統計的に有意な差がある属性項目
- 網かけ：幸福度の平均値が県平均より低く、かつ統計的に有意な差がある属性項目
- 灰色：幸福度の平均値が県平均と比べ、統計的に有意な差が認められない属性項目

【要点】

属性別の幸福度については、職業別、結婚別、世帯構成別、世帯収入別で大きな差がみられる一方、年代別や地域別では差は小さくなっています。

個々人の幸福度はさまざまな要因に影響を受けると考えられることから、県民の幸福度の特徴や傾向をより詳細に把握するためには、この一属性によるクロス分析（細分化）だけでなく、二以上の属性によるクロス分析の結果も合わせて見ていく必要があると考えられます。

3 二以上の属性によるクロス分析

県民の幸福度の特徴や傾向をより詳細に把握するため、7つの属性（性、年代、職業、結婚、世帯構成、世帯収入、地域）を二つ（必要に応じて三つ）組み合わせてクロス分析を行いました。

二属性の組み合わせは下記の21通りがあり、中でも特徴的な傾向が見られた組み合わせ（下表の網かけ部分）の要点を次ページ以降にまとめました。

図表：二属性の組み合わせと第1章における記載箇所

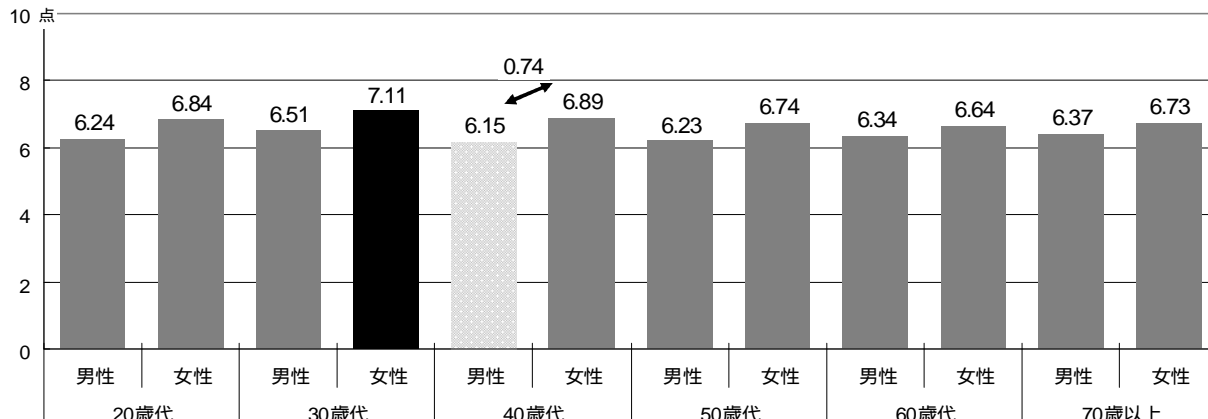
No	二属性の組み合わせ		第1章における記載箇所	資料編の掲載箇所
1	性別	× 年代別	3 (1) …7 頁	資料編 28～30 頁
2	性別	× 職業別	3 (2) …8 頁	資料編 31～33 頁
3	性別	× 結婚別	3 (3) …9 頁	資料編 34～36 頁
4	性別	× 世帯構成別		資料編 37～38 頁
5	性別	× 世帯収入別		資料編 39～40 頁
6	性別	× 地域別		資料編 41 頁
7	年代別	× 職業別	3 (4) …10 頁	資料編 42～43 頁
8	年代別	× 結婚別		資料編 44～45 頁
9	年代別	× 世帯構成別	3 (5) …11 頁	資料編 46～47 頁
10	年代別	× 世帯収入別	3 (6) …12 頁	資料編 48 頁
11	年代別	× 地域別		資料編 49～50 頁
12	職業別	× 結婚別	3 (7) …13 頁	資料編 51～52 頁
13	職業別	× 世帯構成別		資料編 52～54 頁
14	職業別	× 世帯収入別		資料編 55 頁
15	職業別	× 地域別		資料編 56 頁
16	結婚別	× 世帯構成別		資料編 57～58 頁
17	結婚別	× 世帯収入別	3 (8) …14 頁	資料編 59～61 頁
18	結婚別	× 地域別		資料編 62 頁
19	世帯構成別	× 世帯収入別	3 (9) …15 頁	資料編 63～64 頁
20	世帯構成別	× 地域別		資料編 65 頁
21	世帯収入別	× 地域別		資料編 66～67 頁

第1章に記載していない組み合わせも含め、21通りの詳細な分析は、資料編として別途記載しています。

3(1) 性別×年代別

詳細な情報は、資料編28～30頁に掲載

図表：幸福感（性別×年代別）



図表：暮らしの実感

(最も幸福度が高い30歳代女性と女性全体)

暮らしの実感 (単位: %)	30歳代女性	女性全体	差
「自由な時間」がある	62.3	76.6	14.3
「相談できる友人や知人」がいる	89.3	80.0	9.3
「生きがい」がある	77.3	68.2	9.1
「家族との関係」が良好である	91.2	84.6	6.6

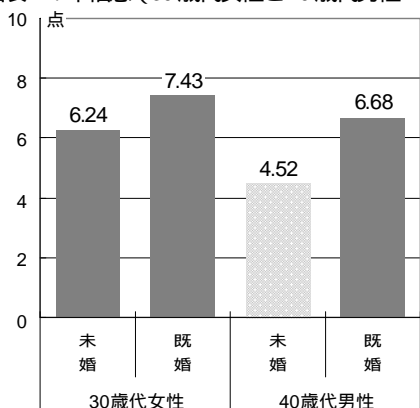
図表：暮らしの実感

(最も幸福度が低い40歳代男性と男性全体)

暮らしの実感 (単位: %)	40歳代男性	男性全体	差
「職場の人間関係」は良好である	71.9	57.2	14.7
「仕事は充実」している	59.6	50.6	9.0
「自由な時間」がある	65.3	78.6	13.3
「精神的なゆとり」がある	46.7	60.0	13.3

暮らしの実感の割合は「感じる」「どちらかといえば感じる」の合計(以下、同じ)

図表：幸福感（30歳代女性と40歳代男性×結婚別）



図表：暮らしの実感（40歳代男性×結婚別）

暮らしの実感 (単位: %)	40歳代・男性		差
	未婚	既婚	
「生きがい」がある	32.4	70.2	37.8
「精神的なゆとり」がある	21.1	54.2	33.1
「必要な収入」がある	43.7	73.1	29.4
「職場の人間関係」は良好である	54.9	76.7	21.8
「家族との関係」が良好である	66.2	87.6	21.4

【要点】

いずれの年代でも女性が男性より幸福度が高くなっています。

最も幸福度が高いのは30歳代女性で、女性全体より「自由な時間」はないものの、「相談できる友人や知人」や「生きがい」があり、「家族との関係」が良好であると感じています。

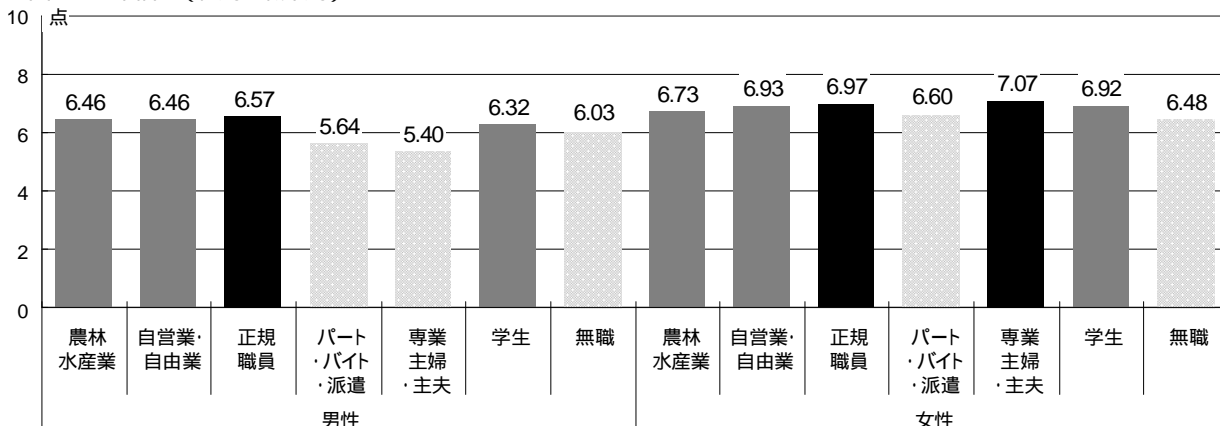
最も幸福度が低いのは40歳代男性で、男性全体より「仕事は充実」し、「職場での人間関係」は良好であるものの、「自由な時間」や「精神的なゆとり」がないと感じています。

さらに30歳代女性と40歳代男性を結婚別に見ると、いずれも既婚より未婚の方が幸福度は低くなっています。特に未婚の40歳代男性の幸福度が低く、既婚の40歳代男性より、「生きがい」や「精神的なゆとり」、「必要な収入」がなく、「職場での人間関係」や「家族との関係」が良好でないと感じています。

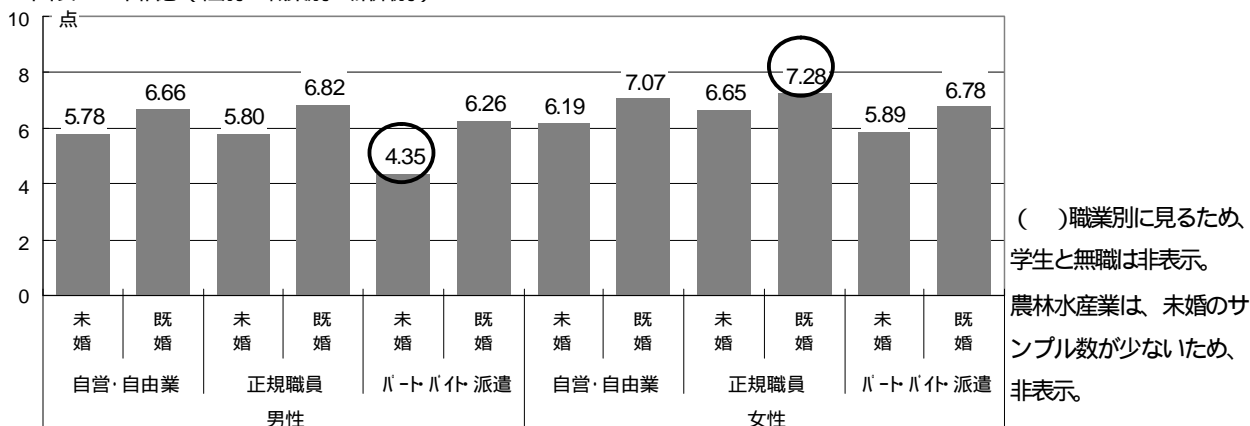
3(2) 性別×職業別

詳細な情報は、資料編31～33頁に掲載

図表：幸福感（性別×職業別）



図表：幸福感（性別×職業別×結婚別）



() 職業別に見るため、学生と無職は非表示。
農林水産業は、未婚のサンプル数が少ないため、非表示。

図表：暮らしの実感（男性×パート・バイト・派遣×結婚別）

暮らしの実感 (単位: %)	男性 パート・バイト・派遣		差
	未婚	既婚	
	「必要な収入」がある	40.0	
「精神的なゆとり」がある	41.8	63.9	22.1
「生きがい」がある	47.3	63.9	16.6
「家族との関係」が良好である	70.9	83.3	12.4

図表：暮らしの実感（女性×正規職員×結婚別）

暮らしの実感 (単位: %)	女性・正規職員		差
	既婚	未婚	
「自由な時間」がある	58.6	75.9	17.3
「余暇は充実」している	60.9	75.9	15.0
「生きがい」がある	75.6	60.2	15.4
「ご近所付き合いや地域活動」をしている	55.3	18.0	37.3

【要点】

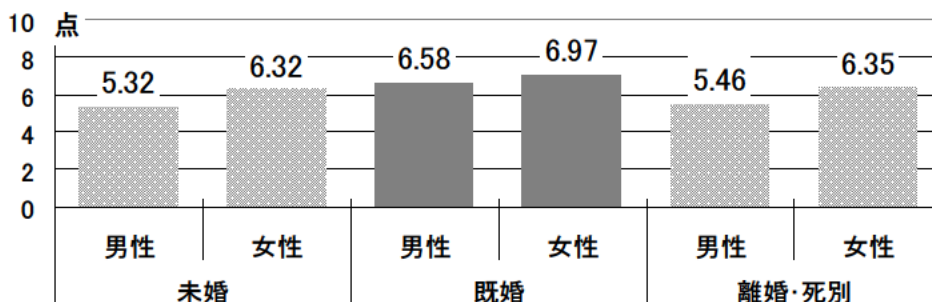
男性は、正規職員の幸福感が高く、パート・バイト・派遣、無職及び専業主夫の幸福感が低くなっています。男性の幸福感について、職業・結婚別でみると、いずれも既婚の幸福感が高くなっています。特に未婚のパート・バイト・派遣の幸福感が低く、既婚のパート・バイト・派遣より、「必要な収入」や「精神的なゆとり」、「生きがい」がなく、「家族との関係」が良好でないと感じています。

女性は、正規職員及び専業主婦の幸福感が高く、パート・バイト・派遣及び無職の幸福感が低くなっています。女性の幸福感について、職業・結婚別にみると、いずれも既婚の幸福感が高く、特に、既婚女性の正規職員は専業主婦より幸福感が高い傾向が見られます。既婚女性の正規職員は、未婚女性の正規職員より、「自由な時間」がなく、「余暇は充実」していないものの、「生きがい」があり、「ご近所付き合いや地域での活動」をしていると感じています。

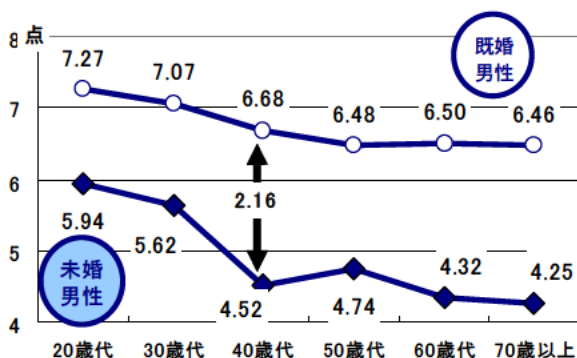
3 (3) 性別×結婚別

詳細な情報は、資料編 34～36 頁に掲載

図表①：幸福感（性別×結婚別）



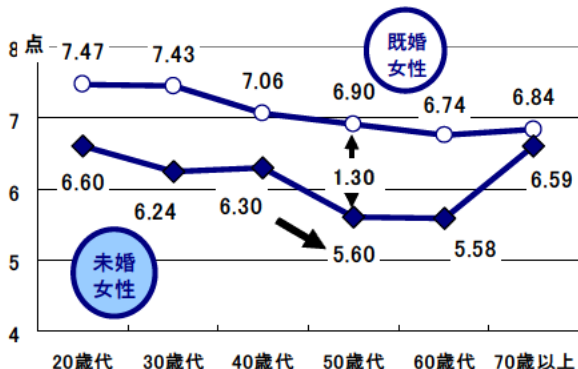
図表②：幸福感（男性×結婚別×年代別）



図表③：暮らしの実感（未婚×男性×30歳代と40歳代）

暮らしの実感 (単位: %)	未婚・男性		差
	40歳代	30歳代	
「精神的なゆとり」がある	21.1	52.5	▲ 31.4
「生きがい」がある	32.4	62.6	▲ 30.2
「必要な収入」がある	43.7	61.6	▲ 17.9
「仕事は充実」している	33.8	52.5	▲ 18.7
「家族との関係」が良好である	66.2	83.8	▲ 17.6

図表④：幸福感（女性×結婚別×年代別）



図表⑤：暮らしの実感（未婚×女性×40歳代と50歳代）

暮らしの実感 (単位: %)	未婚・女性		差
	50歳代	40歳代	
「ご近所付き合いや地域活動」をしている	33.3	18.4	▲ 14.9
「家族との関係」が良好である	63.0	86.8	▲ 23.8
「自由な時間」がある	63.0	86.8	▲ 23.8
「精神的なゆとり」がある	44.4	65.8	▲ 21.4

【要点】

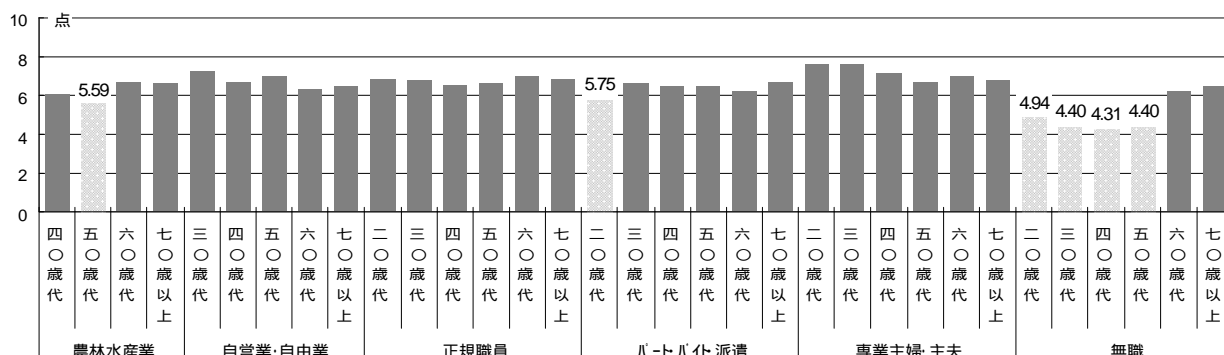
男女とも、未婚、離婚・死別より既婚の幸福感が高く、特に男性はその傾向が強くなっています。未婚の男性は40歳代で幸福感が大きく低下し、30歳代の未婚男性よりも、「精神的なゆとり」や「生きがい」、「必要な収入」がなく、また「仕事は充実」しておらず、「家族との関係」が良好でないと感じています。

未婚の女性は、50歳代で幸福感が大きく低下し、40歳代の未婚女性よりも、「ご近所付き合いや地域での活動」はしているものの、「家族との関係」が良好でなく、「自由な時間」や「精神的なゆとり」がないと感じています。

3(4) 年代別×職業別

詳細な情報は、資料編42～43頁に掲載

図表：幸福感(年代×職業別)



サンプル数が10未満の属性、及び年代別の偏りが大きい学生は非表示とした

図表：暮らしの実感(50歳代×農林水産業と全体)

暮らしの実感 (単位: %)	50歳代		差
	農林水産業	全体	
「ご近所付き合いや地域活動」をしている	86.2	57.3	28.9
「余暇は充実」している	37.9	56.7	18.8
「必要な収入」がある	55.2	71.6	16.4

図表：暮らしの実感(20歳代×パート・バイト・派遣と正規職員)

暮らしの実感 (単位: %)	20歳代		差
	パート・バイト・派遣	正規職員	
「必要な収入」がある	43.3	73.8	30.5
「仕事は充実」している	40.3	68.6	28.3
「家族との関係」が良好である	71.6	91.9	20.3

図表：暮らしの実感(20～50歳代×無職と全体)

暮らしの実感 (単位: %)	20～50歳代		差
	無職	全体	
「必要な収入」がある	14.7	69.0	54.3
「生きがい」がある	42.1	69.0	26.9
「精神的なゆとり」がある	38.9	58.2	19.3
「家族との関係」が良好である	64.2	85.8	21.6

【要点】

50歳代の農林水産業、20歳代のパート・バイト・派遣及び20～50歳代の無職の幸福感が特に低くなっています。

50歳代の農林水産業は、50歳代全体より「ご近所付き合いや地域活動」をしているものの、「余暇は充実」しておらず、「必要な収入」がないと感じています。

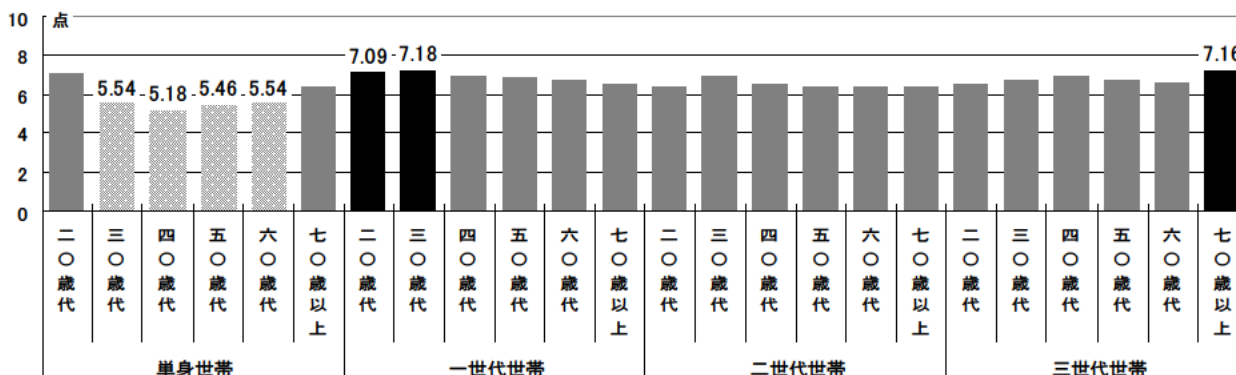
20歳代のパート・バイト・派遣は、20歳代の正規職員より、「必要な収入」がなく、「仕事は充実」しておらず、「家族との関係」が良好でないと感じています。

20歳代から50歳代の無職は、全体より、「必要な収入」や「生きがい」、「精神的なゆとり」がなく、「家族との関係」が良好でないと感じています。

3 (5) 年代別×世帯構成別

詳細な情報は、資料編46～47頁に掲載

図表①：幸福感（年代別×世帯構成別）



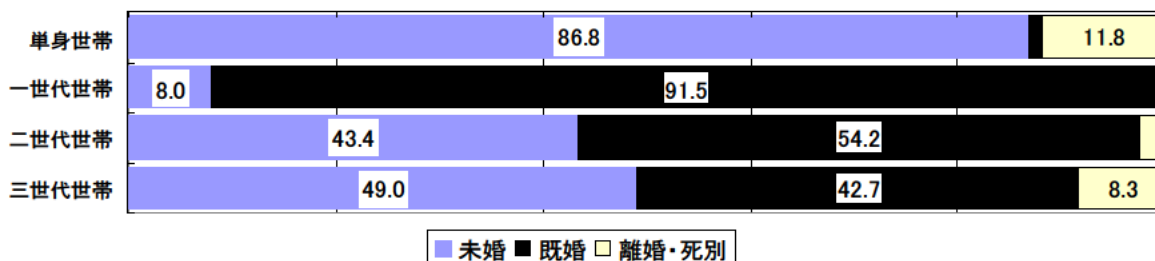
図表②：暮らしの実感（30～60歳代×単身世帯とそれ以外）

暮らしの実感（単位：%）	30～60歳代		差
	単身	単身以外	
「家族との関係」が良好である	59.2	86.4	▲ 27.2
「職場での人間関係」が良好である	50.2	61.7	▲ 11.5
「生きがい」がある	49.3	68.1	▲ 18.8
「必要な収入」がある	59.2	70.3	▲ 11.1

図表③：暮らしの実感（70歳以上×三世帯世帯とそれ以外）

暮らしの実感（単位：%）	70歳以上		差
	三世帯	三世帯以外	
地域は「住みやすい」	88.1	78.8	9.3
「生きがい」がある	72.8	63.8	9.0
「家族との関係」が良好である	89.1	82.8	6.3
「健康」である	65.8	59.7	6.1

図表④：20～30歳代の世帯構成毎の結婚別の割合



【要点】

30歳代から60歳代の単身世帯は幸福感が低く、同年代の単身世帯以外の世帯より、「家族との関係」や「職場での人間関係」が良好でなく、「必要な収入」や「生きがい」がないと感じています。

70歳以上の三世帯世帯の幸福感は高く、同年代の三世帯世帯以外の世帯より、地域は「住みやすく」、「生きがい」があり、「家族との関係」が良好で、「健康」であると感じています。

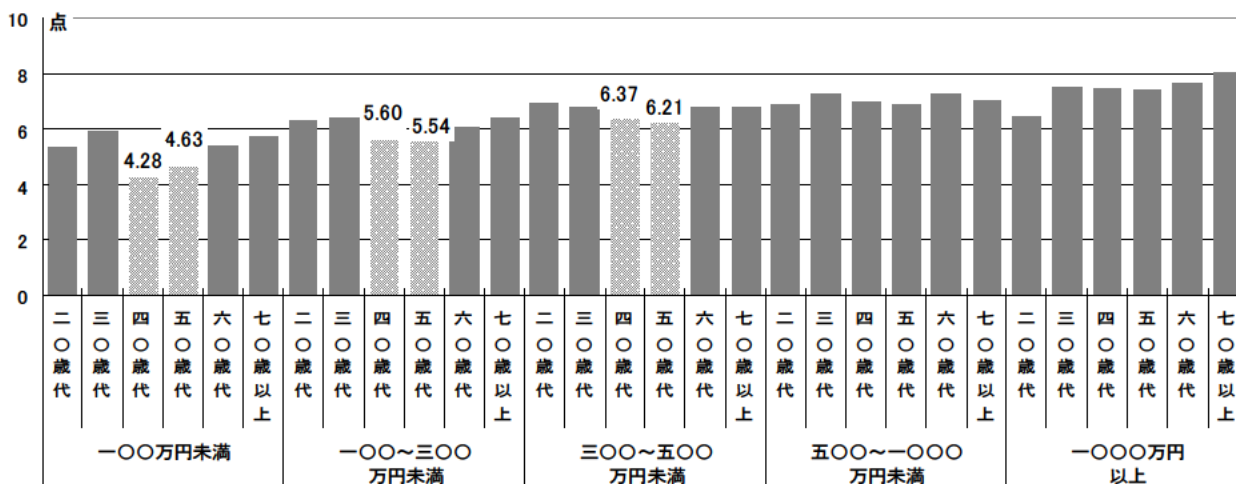
20歳代と30歳代の一世帯世帯の幸福感は高くなっています。

なお、20歳代と30歳代について、世帯構成毎に結婚別の割合を見ると、幸福感の高い一世帯世帯はほとんど既婚が占めています。

3 (6) 年代別×世帯収入別

詳細な情報は、資料編48頁に掲載

図表①：幸福感（年代別×世帯収入別）



図表②：暮らしの実感（世帯収入0～500万円未満×40～50歳代と全年代）

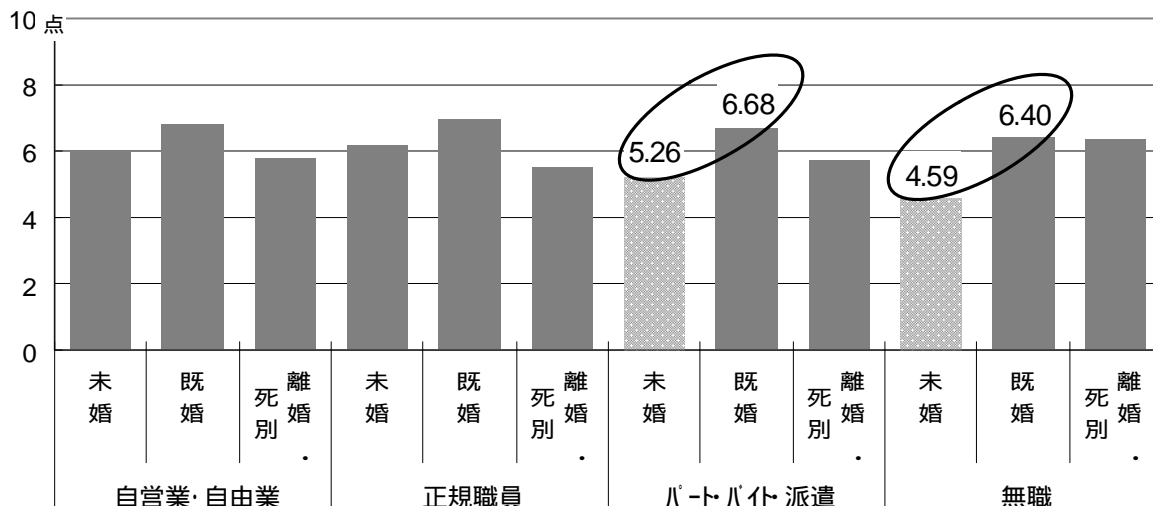
暮らしの実感（単位：%）	世帯収入 0～500万円未満		差
	40～50歳代	全年代	
「精神的なゆとり」がある	47.2	59.1	▲ 11.9
「必要な収入」がある	49.3	59.2	▲ 9.9
「自由な時間」がある	69.2	78.8	▲ 9.6
「余暇は充実」している	48.8	60.9	▲ 12.1

【要点】
 40歳代と50歳代は、世帯収入が500万円未満の層において、他の年代と比べ幸福感が低い傾向にあり、全年代より、「精神的なゆとり」や「必要な収入」、「自由な時間」がなく、「余暇は充実」していないと感じています。

3(7) 職業別×結婚別

詳細な情報は、資料編51～52頁に掲載

図表：幸福感（職業別×結婚別）



農林水産業は未婚のサンプル数が10未満であり、専業主婦・主夫及び学生は結婚別の比較に意味がないため非表示とした

図表：暮らしの実感（パート・バイト・派遣×結婚別）

暮らしの実感 (単位: %)	パート・バイト・派遣		差
	未婚	既婚	
「ご近所付き合いや地域活動」をしている	17.6	62.0	44.4
「必要な収入」がある	47.1	70.1	23.0
「生きがい」がある	58.1	69.7	11.6
「家族との関係」が良好である	74.3	85.4	11.1

図表：暮らしの実感（無職×結婚別）

暮らしの実感 (単位: %)	無職		差
	未婚	既婚	
「家族との関係」が良好である	52.4	85.4	33.0
「必要な収入」がある	26.2	60.1	33.9
「精神的なゆとり」がある	39.8	65.0	25.2
「生きがい」がある	41.7	60.3	18.6

【要点】

いずれの職業においても、未婚は既婚より幸福感が低く、中でも、パート・バイト・派遣及び無職の未婚が低くなっています。

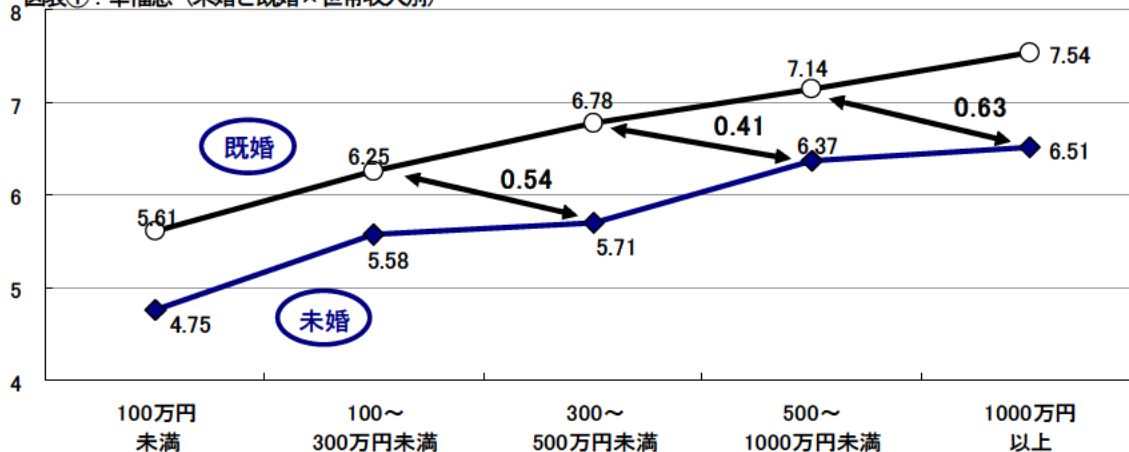
未婚のパート・バイト・派遣は、既婚より、「ご近所付き合いや地域での活動」をしておらず、「必要な収入」や「生きがい」がなく、「家族との関係」が良好でないと感じています。

未婚の無職は、既婚より、「家族との関係」は良好でなく、「必要な収入」や「精神的なゆとり」、「生きがい」がないと感じています。

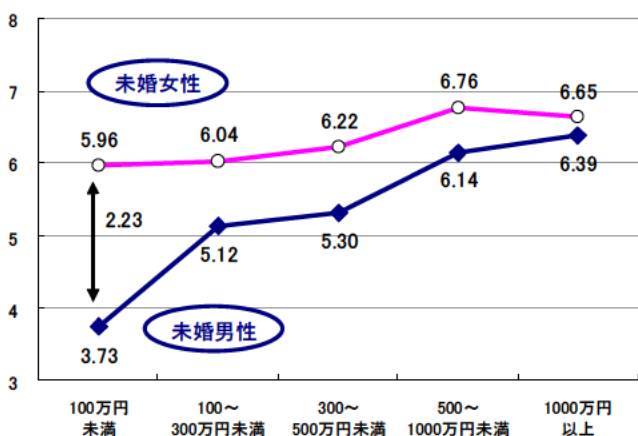
3 (8) 結婚別×世帯収入別

詳細な情報は、資料編59～61頁に掲載

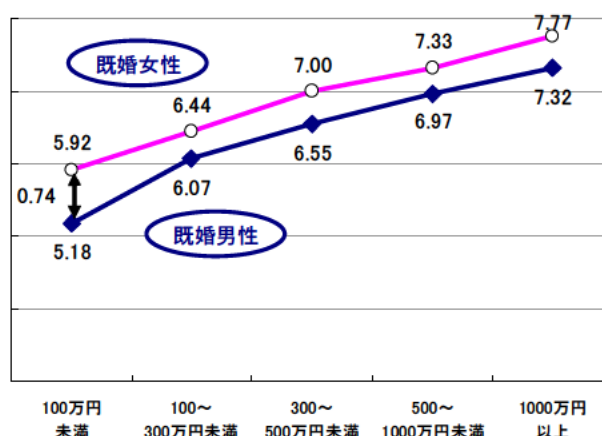
図表①：幸福感（未婚と既婚×世帯収入別）



図表②：幸福感（性別×未婚×世帯収入別）



図表③：幸福感（性別×既婚×世帯収入別）



図表④：暮らしの実感（世帯収入500万円未満×男性×結婚別）

暮らしの実感（単位：%）	世帯収入500万円未満の男性		差
	未婚	既婚	
「精神的なゆとり」がある	40.2	60.4	▲ 20.2
「必要な収入」がある	41.9	57.6	▲ 15.7
「生きがい」がある	51.0	64.4	▲ 13.4
「余暇は充実」している	48.1	61.3	▲ 13.2

【要点】

既婚は世帯収入が一つ高い層の未婚よりも幸福感が高い傾向にあります。

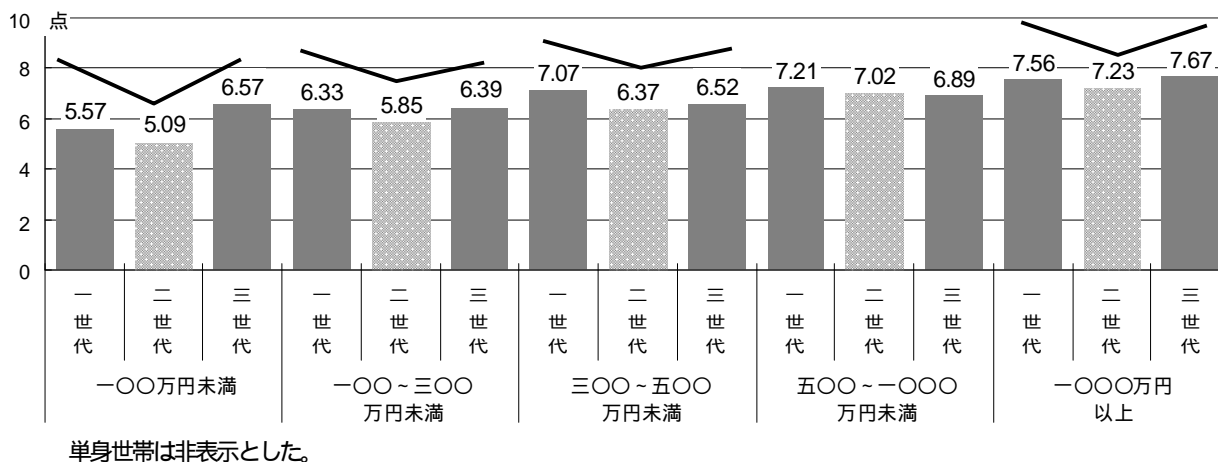
また、幸福感の男女差は未婚の方が大きく、特に世帯収入が低くなるほど未婚男性の幸福感の落ち込みが顕著となっています。

世帯収入 500 万円未満の未婚男性は、同じ世帯収入の層の既婚男性より、「精神的なゆとり」や「必要な収入」、「生きがい」がなく、「余暇は充実」していないと感じています。

3(9) 世帯構成別×世帯収入別

詳細な情報は、資料編63～64頁に掲載

図表：幸福感（世帯構成別×世帯収入別）



図表：暮らしの実感（世帯収入100～500万円未満×一世代世帯と二世帯世帯）

暮らしの実感（単位：%）	世帯収入100～500万円未満の層		差
	二世帯世帯	一世代世帯	
「自由な時間」がある	72.8	85.7	12.9
「精神的なゆとり」がある	55.4	66.7	11.3
「必要な収入」がある	57.2	68.3	11.1
「余暇は充実」している	56.0	68.9	12.9

図表：暮らしの実感（世帯収入100～500万円未満×二世帯世帯と三世帯世帯）

暮らしの実感（単位：%）	世帯収入100～500万円未満の層		差
	二世帯世帯	三世帯世帯	
「自由な時間」がある	72.8	72.7	0.1
「精神的なゆとり」がある	55.4	55.0	0.4
「必要な収入」がある	57.2	52.2	5.0
「余暇は充実」している	56.0	58.1	2.1

【要点】

二世帯世帯は、一世代世帯や三世帯世帯より幸福感が低い傾向が見られ、特に世帯収入が500万円未満の層で幸福感の差が大きくなっています。

世帯収入が100万円から500万円未満の二世帯世帯は、100万円から500万円未満の一世代世帯より、「自由な時間」や「精神的なゆとり」、「必要な収入」がなく、「余暇は充実」していないと感じています。なお、100万円から500万円未満の二世帯世帯と三世帯世帯とは暮らしの実感に大きな差は見られません。

